

しょうしんげ  
『正信偈』に親しむ ⑫

教えを信じ念仏せよと

天親菩薩(上)

てんじんぼさつ  
天親菩薩は、お釈迦さまが亡くなられて約九百年後にインドで活躍された方です。親鸞聖人のお名前の「親」の字は、天親菩薩の「親」の字をもらっておられます。聖人は、七高僧しちこうそうのなかでもとくに天親菩薩を尊敬そんけいされ親しみをもっておられたのです。



七高僧の一人  
天親菩薩

てんじんぼさつ  
天親菩薩は、如来にょらいの心こころ(本願ほんがん)をひたすら信じて念仏すれば、かならずたすかるのだと教えられます。私たちに念仏となを称となえる心こころがおこるとき、悩み深きものをすくわずにおれない如来にょらいの慈悲じひが実感される

のです。教えに遇あうことは、我がすがたを映し出す鏡かがみと出会うことでもあります。自分だけよければよいという身勝手みがってな生き方が映し出されるかもしれません。この身は私の所有物しよゆうぶつではなく、如来にょらいから賜たまわつたいのちであることに気づかされるのではないのでしょうか。

(本文・読み方)

(現代語訳)

てんじんぼさつぞうろんせ  
天親菩薩造論説  
きみようむげこうによらい  
帰命無碍光如来  
天親菩薩は仏の心を説き  
私はさわりなき仏のいわれをよく聞きわけ信じて生きますと表明されました

えしゅうたらけんしんじ  
依修多羅頭真実  
きようによつてしんじつ  
経によつて真実をあらわし

こうせんおうちようだいせいがん  
光闡横超大誓願  
まよ  
迷いの道をすみやかにと

こうゆほんがんりきえこう  
広由本願力回向  
かにかされました  
仏は願いの力を広く回し

いどぐんじょうしやういっしん  
為度群生彰一心  
さし向け  
あらゆるものをもらさず

救うために一心をあらわされたのです

〔永代経御懇志〕

施主 阪口 幸人氏  
義忠院釋敏雄  
施主 東 美恵子氏  
高台院釋法淳  
東家先祖代々

眞宗本廟 報恩講

十一月二十一日から

東本願寺では、十一月二十一日から 親鸞聖人の祥月命日の二十八日まで、七昼夜にわたる勤まります。ぜひお参りください。詳しくは「同朋新聞」十一月号をご覧ください。



本願寺・報恩講の風景

編集後記

城崎にある水族館を訪ねた。まず

本館に高さ3階分はある水槽の中を泳ぐ魚たちに癒やされる。戸外の浅瀬では、ウニやヒトデを水の中で触り、魚にエサをやる体験も。彼らも同じいのちをもっていることを感じる。イルカ、アシカ、セイウチと人が演じるショーでは、動物たちの知能の高さに感動。すべてのいのちは、地球誕生以来共に生きていることを実感した一日だった。